

様式 27A-2 放射性同位元素等作業届

主 実 験 者 名		所 属		連 絡 先	
他 の 実 験 者 名					
作 業 年 月 日	200 年 月 日 時 ~ 月 日 時				
作 業 実 験 室 ( で 囲 む )	1. 低レベルトレーサー実験室    2. 中レベルトレーサー実験室    3. 高レベルトレーサー実験室 4. 遺伝子 P 2 実験室    5. 病原微生物 P 2 実験室    6. 分子生物学実験室 7. 動物実験室    8. 動物飼育室 9. 病原微生物 P 3 実験室    10. 遺伝子 P 3 実験室 11. 液クロ測定室    12. データ処理室 13. 細胞生物学実験室    14. 恒温室    15. 低温室 16. 物理学実験室(第1測定室)    17. PET室(第2測定室)    18. 実習室 19. シンチ室(低レベル測定室)    20. 化学分析室    21. 分析機器室 22. 天秤室(暗室)    23. オートラジオラフィー室(洗浄室)				
R I 番 号	R I C		使 用 核 種		
使 用 数 量 ( 全 量 使 用 時 は )	( )	全 量 使 用	( )	kBq	
作 業 前 の R I 貯 蔵 場 所 等	貯 蔵 場 所 の 番 号 : ( )				
作 業 内 容					
備 考				管 理 室	

【 R I 分 取 作 業 記 録 】

- R I 分取作業をしましたか。( はい ・ いいえ )
- 「はい」と答えた場合のみ、以下に記入してください。
  - R I 分取作業をした場所は、( 配分室 ・ 配分室以外 )
    - \* 配分室以外の場所は ( \_\_\_\_\_ )
    - \* その理由は ( 1.ヨードを使用、 2.その他 \_\_\_\_\_ )
  - 作業前後に汚染検査をしましたか。( はい ・ いいえ )
  - 作業前の汚染検査の測定値は、約 ( \_\_\_\_\_ ) cpm でした。
  - 作業後の汚染検査は、( \_\_\_\_\_ 時 \_\_\_\_\_ 分 ) ごろ行った。
    - \* 測定値は、約 ( \_\_\_\_\_ ) cpm でした。
  - 汚染があったとき、除染後の測定値は、約 ( \_\_\_\_\_ ) cpm でした。

放射性同位元素等廃棄届

廃 棄 物	可 燃 物	材質：紙質・布類・脱脂綿・木片・コルク 品名：ポリエチレンろ紙・ペーパータオル・キムタオル・液シンバイアルパッキン・シークエンス等使用済濾紙、R I 原液廃棄済紙・他	kBq
	難 燃 物	材質：ポリエチレン・ポリプロピレン・ポリカーボネート・ナイロン・テトロン・アクリル・ABS樹脂・天然ゴム 品名：注射筒・ポリビン・アッセイチューブ・ピペッタチップ・ゴム手袋・ポリ手袋・プラスチックバイアル・タッパウェア・パラフィルム・発砲スチロール・スポンジ・ビニール袋・バイアルピン蓋・カウンタ用チューブ・液シン用オムニバイアル・シャーレ・他	kBq
	不 燃 物	材質：塩化ビニール・フッ素樹脂・シリコンゴム・ネオプレン・サラン樹脂・ゴム・金属・ガラス・シリカゲル・陶磁器 品名：クレラップ・サランラップ・塩化ビニール手袋・アルミ箔・ガラス試験管・注射針(専用容器)・R I 原瓶容器・他	kBq
	無 機 液 体	溶媒が水の液体・水の混入アルコール等 廃棄するときには中和すること(塩素を使用しない)、短半減期、長半減期に分類して廃棄すること。 有機廃液を混ぜないこと	kBq
	有 機 液 体	液体シンチレーター廃液・溶媒が有機物(トルエン・キシレン・ベンゼン・その他油類)の液体・100%に近いアルコール類・アセトン・ホルマリン なるべく核種ごとに貯留すること。濃度が焼却時の基準以下となるように努めること。 塩素を含む試薬の有無 ( 無 ・ 有 [ 化合物名 _____ ] )	kBq
	動 物	種 類 : _____ 匹 数 : _____ 動物廃棄記録シール番号 : _____	kBq
	そ の 他	非圧縮性不燃物(鉛・大型陶磁器・コンクリート屑など) その他 ( 明記せよ : _____ )	kBq
廃 棄 物 の 計			kBq
使 用 中	使用場所 [ _____ ]	kBq	
生 成 物 ( 合 成 等 に よ り 新 た な 放 射 性 化 合 物 が 生 成 し た 場 合 )			kBq
合 計 ( = 使 用 数 量 )			kBq
備 考		管 理 室	